

## 第6回 郡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議

### 議事概要

日時：平成28年1月29日（金）

10:00～12:00

場所：郡山市役所 本庁舎2階 庁議室

#### ○開会

司 会) 定刻となりましたので第6回まち・ひと・しごと総合戦略有識者会議を開会します。本日の会議が最終となります。本日は小川委員、松原委員、本部委員、吉田委員が欠席となります。竹内委員に代わりまして佐藤様が出席されています。初めに内藤座長からご挨拶をお願いします。

内藤座長) 慣れない座長で迷惑をかけたと思うが、皆様のご協力のおかげで最終報告にたどり着けたこと、お礼を申したい。

議論の中でもいろいろなお話があった。出生率の目標という話もあったが出生率を上げて魅力あるまちでないと人口は外へ出てしまうので交流人口を増やそうという意見もあった。これからは魅力あるまちとしての郡山の指標が人口なのかもしれない。報告書ができたということで終わることなく、継続的に魅力あるまちを形づくっていくことが郡山の在り方なのではないかと感じた。行政の手腕に期待するところ大である。皆様にもご協力頂いていいまちをつくっていきたいと思う。今までありがとうございます。

司 会) 次に、前回第5回までの皆様の意見を踏まえた、郡山市人口ビジョン及び郡山市総合戦略の案について、座長から市長にお渡し頂きます。

(座長より市長に報告書を提出)

市 長) 確かに承りました。

司 会) 続いて、市長からご挨拶申し上げます。

市 長) 本日は答申を賜りましてありがとうございます。この会議にはお忙しい方々に集まって頂き、真剣なご討議を頂きました。頂いた答申を市政に反映し、新しい政策の糧にさせていただきます。

専門用語ではクリフエフェクト（崖効果）というらしいが、ポケベルが携帯電話の普及で突然利用が無くなったように最近では技術革新のスピードが大変速く、どんどん新しい技術が表れてくる。農業のIT化の事例を見てきたが、スマート

フォンのアプリで農業経営を変えるということで、「アグリカルチャーからアブリカルチャーへ」というような話があった。この計画も、計画の内容を金科玉条として奉るのではなく、変化に対応して日々更新していく必要がある。その節にはきちんと説明をさせて頂きたい。

郡山市の転入出者数は毎年約2万人で春に集中する。この時期の市役所の市民課の窓口の対応次第で市の印象も変わる。転入者に対して「第一印象のいいまち」、「安心して子育てできるまち」であると五感で感じてもらえるようなまちづくりに取り組んでいきたい。

長期間にわたってありがとうございました。

司 会) それでは議事に移ります。会議の進行は座長にお渡しします。

座 長) それでは今日の議題、1～4について一括して事務局から説明して頂きたい。

事務局) 資料説明(略)

1. パブリックコメントの結果について
2. 第5回郡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議における意見の反映について
3. 郡山市人口ビジョン(最終案)について
4. 郡山市総合戦略(最終案)について
5. その他

内藤座長) これまでのところで質問があれば伺いたい。

なければ順番にご意見を頂きたい。上田委員からお願いします。

上田委員) 素晴らしくまとめて頂いた。前回も述べたが戦略はプランではなく目標を実現するための道筋を照らすもの。PDCAの確立が一番大事だと思っているので中身以上をお願いしたい。

内藤座長) 大和田野委員お願いします。

大和田野委員) 郡山市の活性化に対して、人口減少を食い止め増やしていくためには郡山市にたくさんの人が集まって一部が定着するということが大事だと意見を述べてきた。人が定着するには、市の魅力、雇用、暮らしやすいまちなどいろいろ必要だという意見を述べてきた。計画の中身で取り上げて頂いたと思う。言うだけでなく頑張っていきたいと思う。

内藤座長) 小松委員お願いします。

小松委員) これまで農業・農村の地域づくりの観点から意見をしてきたが、最終案にはかなり具体的なものが入っていると思う。農業は「しごとみがき」の観点だけでなく「人の流れと定住促進」、魅力づくりにも位置づけて頂けてよかった。

集落維持活性化の事業について。農村の地域づくりに先進地域に学びながら、より多くの地域住民が関われるような方向性を考えて頂きたいと思う。

最後の修正で産学官連携やインターシップについても充実して頂いた。大学

としても責任重大だが、地域にどんどん関わっていくことにしているので同じ目標に向かって取り組めたらいいなと思う。

内藤座長) 佐藤委員お願いします。

佐藤委員) 2040年はかなり先のことで、長期的な目標になるので、点検・見直し・管理を常に心掛けて目標達成に向かって努力していただきたい。

内藤座長) 首藤委員お願いします。

首藤委員) 今回参加させて頂いて勉強になることが多かった。市内で活動している様々な子育て支援団体が繋がっていくことが重要だと思う。

ファミリーサポート事業の KPI を挙げているが、今の事業の進め方では目標は達成できないので、やり方を変えていかなければならないと思う。事業の改善点をそれぞれの部署で検討して頂きたい。

内藤座長) 佐藤委員(竹内委員代理)お願いします。

竹内委員代理) PDCA サイクルが重要。私も策定に関わったので手伝っていききたいと思う。

人口目標については郡山だけでなく福島県全体の人口維持も重要だと思うので、近隣市町村との連携を図っていくべきだと思う。

福島市で大学を新設するという話があるが、学校・教育は非常に重要だと思うので、考えて頂きたい。

内藤座長) 丹野委員お願いします。

丹野委員) これまで申し上げた意見は反映されていると思う。

子どもを持たない理由として教育費の懸念が大きかった。奨学金返済支援に関しては県の事業が検討されているということだったが、市としては県の支援に上乗せして給付を考えてほしい。

後は細かな点だが、総合戦略案 p.10 の右下の注について、4 が抜けているのが気になる。p.11 の KPI については企業数ではなく件数だと思う。p.14 基本目標 2 の KPI で「社会移動率」とあるが、一般市民には分かりにくいので注があるといいと思う。p.18 の家庭訪問医療の KPI の数字が現況よりも下がっている意味は何か。同じく KPI だが交流人口を増やそうという話があるのに p.14 のコンベンションの開催件数の目標は現状維持のままでいいのか。

内藤座長) 事務局から現段階で回答できることはありますか。

事務局) コンベンションについては、担当課と調整したが震災特需が多かったということで、今後増やすのは難しいということ。p.18 の家庭訪問については問題があるから訪問するというので、減った方がよいという考え方。

丹野委員) 社会移動率には簡単なコメントを付けて頂ければ。

事務局) 分かりました。

内藤座長) 藤田委員お願いします。

藤田委員) いろんな意見を述べたが戦略に反映されていて嬉しい。戦略実現のためには戦術が必要になってくる。行政だけでなく市民の力も必要な中で、パブリックコメントが0件だったのは残念。ただ募集しても意見は集まらない。こうした戦略に関連して課題を解決しようとして行動している人や団体の課題や要望を受けとめる場所が常時あることが重要だと思う。そのような場があれば環境の変化に合わせて適切に戦略が更新されていくと思う。戦略にとらわれず、市民や各種団体と力を合わせて共に行動していくことが大事になってくる。

内藤座長) 三森委員お願いします。

三森委員) 第1回の際は漠然としていたが、まとめて頂いて形になりイメージがつかめた。人がいないとまちは発展しない。画に描いた餅にならないように戦術を駆使してやっていただきたいと思う。

p.19の育児パパサポート奨励金支給事業について。育児休暇を取る父親に支給する事業ということなのか。

事務局) 委員ご指摘の通り。現在、国の制度では男性が育児休暇を取得した企業に対し支給する制度はあるが、これは本市が来年度から始める新規事業で、育児休暇を取得した父親に助成金を支給する。

三森委員) 男性は長期休暇を取ると影響が大きいので休みが取りにくいと聞く。代わりの人を雇えるくらいの支給が企業に出れば休みを取りやすいと思ったので伺った。

計画策定後はPDCAが大事だと思うので、よろしくお願ひしたい。

内藤座長) この会議を通じて私を感じたことを述べさせて頂く。

20年後の人口は大体決まっているので、大事なことは交流人口をどう増やすかということ。出生率は目標ではなく結果だという視点を継続的に郡山市の戦略に取り上げて頂きたい。

市民の景況判断指数のような形で市民の郡山市の住みやすさについての評価がトレンドとして良くなっているのか悪くなっているのかということが時系列で確認できるとよい。

郡山は比較的恵まれている都市で、周辺市町の人口を吸い上げる形になっているので、難しいとは思いますが周辺市町との連携も重要だと思う。

都市機能に対する評価では、女性や若者の目線が大事だと思う。こういう会議には同じ顔が並ぶ傾向があるが、まちづくりに取り組んでいる学生も増えているので、学生の意見を聞く場を設けてまちづくりに反映したらどうか。

経済人として最後に一言。企業が子育てをサポートする制度はあるが、使う企業と使わない企業があってはだめで、すべての企業が社会的責任として社員の子育てを支援する文化を築いていくことが大事だと思う。

ここからは意見交換の時間にしたい。若者の多いまちが活性化につながると

思うが、何かご意見頂けないだろうか。

佐藤委員) 話を変えて申し訳ないが、磐越西線の新駅活用の話は出ていたか。新駅からは奥羽大学や産総研が近くなるが。

事務局) 今回の戦略はソフト事業が中心なのでハード事業は主な事業としては挙げていない。関連するソフト事業を組み合わせ考えていきたい。

佐藤委員) 新駅設置と二次交通網の充実は、コンベンションの維持や交流人口の増加につながる。将来的には大きな駅に育てていかないと人口増にもつながらないのではないかと思う。

福島市は医療系の大学の設置を打ち出した。一時期、大学のキャンパスを郊外に出す動きがあったが、最近は都心に戻す動きが出ている。若者が住んで楽しいまち、職住近接のまちにしていくため、若者が集まれる中心市街地づくりに長期的に取り組めたらと思う。

内藤座長) 当事者でもある福島大学としてはどうか。

小松委員) これまで高校は地域貢献に取り組んできたが、大学はごく一部だった。福島大学は東北3県の出身者が多く、地元での就職意向が強い。在学中にどれだけ具体的なビジョンが持てるかが重要だが、それが難しいから公務員セミナーに群がる。もう少し地元の多様な職場に定着する構造にしていくためには教育の現場から変わっていかないといけない。

近年の取り組みとして、リタイアした人だけでなく現役の人も大学で学びなおしをする社会人大学院に力を入れている。子育てをしたり仕事をしている人が最先端の知識を学びながら行政に的確なアドバイスをしながら実践者になるというモデルができつつあるので、そういう意味でも大学の役割はある。

内藤座長) 学生でもある藤田さんの意見はどうでしょう。

藤田委員) 私も特定課題研究の提出を終えて、あとは卒業というところまで来たが、学ぶところが多かった。学部生の時の学びと社会人経験をしてからの学びは学部生の頃と一味違う。学ぶことの課題設定についても非常に具体的に構築することができるので、社会人経験をしたあとの学びが重要だと思う。自分は自営業なので裁量の範囲でやれたが、会社員だと負担は大きいので子育て支援と同じで学ぶことに対する職場の理解やサポート、例えば会社からの派遣扱いにする等も重要になってくると思う。地域・企業・家庭・学術研究機関が連携して進んでいければ面白い形になると思う。

内藤座長) 日大工学部はどうか。

上田委員) 日大工学部には各地から学生が郡山市に集まってきてくれている。環境は比較的良好で、志願者数の倍率も私大の中では安定している。ただ、郡山で働きたい学生が多いのに、地元には働く場が足りないという課題がある。学生側にも矛盾があって、地元で就職したいという割には大企業への就職希望が多くて地元の

中小企業への魅力を感じないと言う。個人的には、地元で若者が活躍できる企業へのインターンシップを増やしたい。若者の意見を聞く場をと言う話があったが非常に嬉しい。工学部は他の学部より就職率が高い。市内に人材を使える場を増やしたい。

内藤座長) 確認をしたいが、就職先を知らないのか、就職できないのか、就職したい企業がないのか。

上田委員) 学生からすると就職したいが就職口が足りない。

内藤座長) 人手不足の時代ですからそれはミスマッチということ。

産総研はこれから職員も増えてくるし、若い世代の研究者という意味では知的なリーダーになる人も増えてくると思うが、若い研究者たちの郡山市に対する満足度はいかがでしょうか。

大和田野委員) イメージと実態がかけ離れているように感じる。職員を集めるなかで感じるのは、東京や大都会で暮らしてきた人が場所を移すことに対して抵抗がある人が多い。ただ、産総研福島研究所は交通の便が悪いことが障害になっているのは事実で新駅ができるのはありがたい。そんな中でも、働きに来ている若い人のなかから郡山で結婚して子どもを産んだりする者も徐々に増えてきている。生活の不便をいかに解消していくかということに腐心している。

最近、東南アジアの国に行くと若者が多くて活気があると感じる。それがどんなに大切かということを考えて、いろんな意見を取り入れて若者を増やしていければと思う。

佐藤委員) ちなみに産総研から郡山駅までタクシーでいくらかかりますか？

大和田野委員) 4千円前後です。

内藤座長) 福島市の方からこんな陸の孤島になんでつくったのかと嫌味をいわれた。

佐藤委員) 西部第一工業団地は郡山駅から遠い。二次交通網を整備しないと企業も来ない。ランドデザインに基づいて周辺に住宅地を配置して職住接近にしないといけない。

大和田野委員) そういう意味でも新駅の周辺がもっと発展していかないといけない。

藤田委員) 喜久田駅も含め既存駅周辺を市と県で連携して整備し、バスなどの交通網も充実してほしい。五百川パーキングエリアにスマートインターチェンジを設置できないかという提言もある。既存のものを有効活用し、人が集まってくれば農作物も売れるという好循環が期待できる。今回はソフト事業中心ということだが、ハード事業にもしっかりと取り組んでほしい。磐越西線の運行本数が少ないので、磐梯熱海折り返しの列車があってもいい。

内藤座長) 人口が増えれば列車の本数も増える。

丹野委員) 新潟大学も都心から郊外にキャンパスを移したことにより中心市街地空洞化の一因となったが、最近新潟駅直結のサテライトキャンパスをつくった。郡山

駅周辺に研究者のディスカッションの場や社会人大学院のような施設をつくったらいいのではないか。交流人口のことを考えると施設の場所は重要。駅前はこちらの顔なので。

内藤座長) 大学も学外に出ていく活動を増やしている。福島大学のビジネスキャリアプログラムでは郡山で授業の半分をやっている。東北大学や会津大学でもそのような取組みを進めている。若者と企業人が意見交換する場が駅の近くにあるというのはいいことだと思う。

大和田野委員) 私は駅の近くで毎年連続 15 時間の講義をやっている。受講者はほとんどが企業の方。

内藤座長) 高齢者を対象としたあさかの学園大学は駅前にある。高齢の方だけでなく、地域のリーダーとなる若者を育てる場がほしい。人口の人数ではなく、キーマンとなる人の密度の高いエリアがイノベーションを起こしているような気がする。提言としては書きにくい、企業人としてもサポートしていくので、若者が集まって意見交換をする場のある活気のあるまちにしたいと思う。

ところで、郡山は子育てのという面で恵まれているのか。

首藤委員) 福島県内では子育てしやすいまちだと思う。ショッピングセンターの駐車場も無料だし、ニコニコこども館のような施設もある。ただ、不足しているのは小さい子どもから年寄りまでが集える場。子育て中の親子は、駐車場がない、魅力的な店がない、子どもが遊べる場所がないといった理由から駅前に行かない傾向がある。駅前は大人の場所、市役所周辺は子どもの場所というふうに分かれている。震災後、室内遊び場が郊外に整備されたが、子育て中の親だけになってしまう。子どものための施設をつくったのはよいが、結果的に子育て中の親子を隔離した形になっていないか。中高生が子どもと触れ合える場があれば、若い世代の人たちが子どもを欲しいと思えるようになるのではないか。

育パパの件。今の仕組みでは男性は育児休暇をとれないと思う。市役所の職員でもそうではないか。奨励金を支給するだけでなく、育児休暇をとらせることで企業にも何かメリットがないと社員もとりづらい。父親が育児休暇をとれるようにするには何か仕掛けが必要。まずは役所の人が率先してとってほしい。

内藤座長) 男性の育児休暇についてはなかなか難しい課題はあるが、みんながとればとれるようになる。私も社員に勧めたいと思う。

最後になるが、なにか言い残したことがあれば。

三森委員) 育パパの話ではなく介護休暇の話。知人の県の職員が介護休暇を取ったが、審査が厳しかったとのこと。誰かが休暇をとると他の職員の負担が大きい。本人へのお金の支給ではなく、職場側に休んだ人の補充ができるくらいの手当てを考えないといけない。

内藤座長) 人が採れなくて苦しんでいる企業の姿がある。企業としてはそういったミス

マッチをなくして将来への布石として若者の雇用をしていくことが大事だが、この20年経済が厳しく採用ができなかったため、少し忙しくなると人材不足になり、人に抜けられたら困るということになっている。出生率と育児休暇の取得率には相関関係があるかもしれない。休暇をとりやすいまちにしていかなければいけないという問題意識は持っていかなければ。

三森委員) もしも会社が補充をしたいといったときは、退職者の再雇用を支援する等の取組みがあっていい。いずれにしても、遠慮しながら休暇を申請しなければならないという状況はどうかと思う。

内藤座長) 最近建設業は人手不足で社員に辞められては困るので「育児休暇・介護休暇をとっていい」「会社として支援する」と今なら言える。建設業では入札制度の中でそうした取組みが評価されるインセンティブの仕組みがあるので、休暇取得率は比較的高く表彰を受けている企業も多い。法律的な誘導策ができるといい。

以上をもって議事を終了します。ありがとうございました。

#### ○その他

司 会) その他ですが、何かございますか。

丹野委員) 案が出来上がった段階で、一般の市民の方にとって頂けるようにしてほしい。ネットに掲載するだけではなかなか見てもらえないので、出前説明会のようなものをやった方がよい。選挙権が18歳からになるということもあり、若いうちから自治体でこういう計画を作っていることを知ってもらった方がよいと思うので、高校生や大学生に対する説明会を開くことを検討してほしい。

内藤座長) 郡山市役所の就職説明会ではなく、「郡山市というまちに就職するための説明会」を学生課でやって頂くとか、なにか考えてもいいのかもしれない。

司 会) その他ございますか。案がまとまりましたら皆様に後日発送させていただきたいと思います。会議が終わった後、先日の記者会見の際の資料をお配りする。その資料の中に、新駅設置に係る懇談会の件が出ている。

#### ○閉会

司 会) 以上をもちまして第6回まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議を閉会します。委員の皆様には快く引き受けて頂き有難うございました。皆様には今後とも市勢の発展のためにご尽力を賜りますようお願いいたします。ありがとうございました。

政策開発部長) 今後とも見直し等の際にご相談することもあるかと思っておりますので、よろしく申し上げます。ありがとうございました。

以上